

4. 国際地域学部

(1) 国際地域学部の研究目的と特徴	4-2
(2) 「研究の水準」の分析	4-3
分析項目Ⅰ 研究活動の状況	4-3
分析項目Ⅱ 研究成果の状況	4-6
【参考】データ分析集 指標一覧	4-7

(1) 国際地域学部の研究目的と特徴

1. 研究目的

福井大学の基本目標である、「地域社会にしっかりと軸足を置きつつ、グローバル化社会で活躍できる高度専門職業人の育成」、「地域特性を踏まえて、ひとづくり、ものづくり、ことづくりにおける地域の中核的拠点機能」、「地域の創生と持続的な発展に貢献」に基づき、国際地域学部ではグローバル化社会における地域の抱える諸課題について、その背景や原因を分析し、その解決に資する研究を進めることをその研究の目的としている。この目的を達成すべく、以下の取組を行っている。

- ① グローバル化にともないう地域社会や地域の産業に発生する諸課題を理解・分析し、その解決の実践的な方法を探るための研究、及びグローバルな活動展開と多文化共生に必要な英語やその他の外国語、グローバル化の諸相を理解するのに必要な海外諸地域の文化・社会研究等を行うこと
- ② 具体的な地域課題についてその背景や原因を分析し、その解決に資するための総合的な研究を行うこと。
- ③ 国際地域学部の特色ある教育である、「地域や企業等との参加・協働を通して、地域課題の探究と解決に取り組む授業（課題探求プロジェクト科目：PBL）」の深化・発展に関する研究を行うこと。

2. 研究の特徴

地域では、少子高齢化やコミュニティの危機が深刻な課題となっている。また経済のグローバル化に対応した地域経済の活性化は急務の課題となっている。このような課題の多くは、国内にあっては地域の共通の課題でもある。さらには地域が抱える課題は、国内のみにとどまらず、グローバル化の展開する国際社会にも共通にみられる課題でもある。これらの諸課題の解決の背景や原因を分析し、解決の方向性を探るための総合的な研究領域を本学部では国際地域学と考えている。

本学部では、地域の課題に関する研究、第二言語としての英語教育研究を含む多文化の理解・交流を促進する研究、本学部の特色ある教育である PBL をより深化・発展させる研究を重点的に推進するとともに、地域・国際という異なるレベルに共通に貫通する構造的・重層的かつ相互に深く関連する地域課題に関する総合的な研究を推進しており、この点に本学部の研究の特徴がある。

また本学部では、様々な研究分野の教員が総合的な研究を推進するために、教員の研究体制について講座制等のブランチを特に設けず、全教員が相互に交流可能な体制を取っていることにその特徴がある。

(2) 「研究の水準」の分析

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

<必須記載項目1 研究の実施体制及び支援・推進体制>

【基本的な記載事項】

- ・ 教員・研究員等の人数が確認できる資料（別添資料 3904-i1-1）
- ・ 本務教員の年齢構成が確認できる資料（別添資料 3904-i1-2）
- ・ 指標番号 11（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 国際地域学部の設置において、総合的な研究を推進するために、特定の研究分野に基づいて教員を組織する体制を取らず、学部全体で相互に研究交流を行い、適切な研究拠点を適宜設置できる研究体制を組織した。また、学部の研究推進・管理を行うために研究推進委員会を設置し、国際地域学の研究目的に即した各教員の研究活動を促進するために、科研費等の外部資金の獲得活動の促進活動を行うとともに、同委員会で学部長裁量経費等の学部の研究資金の適切な配分等を行っている。その結果、科研費の採択が2017年度14件、2018年度9件、2019年度12件であり高い水準を維持している。また2016年度から2019年度にかけて、外部資金を得て新規に共同研究2件を実施した。学部設置の2016年度以降、公表された研究論文は増加傾向にある。（別添資料 3904-i1-3～6）

現在、地域との共同研究を推進する組織（国際地域連携オフィス）を準備中である。[1.1]

<必須記載項目2 研究活動に関する施策／研究活動の質の向上>

【基本的な記載事項】

- ・ 構成員への法令遵守や研究者倫理等に関する施策の状況が確認できる資料（別添資料 3904-i2-1～4）
- ・ 研究活動を検証する組織、検証の方法が確認できる資料（別添資料 3904-i1-4）（再掲）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部では、地域課題に関する研究、第二言語としての英語教育を含む異文化理解・交流に関する研究、本学部の特色ある教育であるPBLをより強化する研究を特色ある研究として重点的に推進しており、これらについて学部長裁量経費の重点配分（別添資料 3904-i1-6）（再掲）や、科研費の獲得の支援、連携先との共同研究等による外部資金の獲得等を促進・支援する取組などを実施している。これらの取組を通じて、重点的に推進した研究分野において、2016年度～2019年度で研究論文30件（全体の41%）、口頭報告66件（全体の58%）などの研究業績を生み出すことができた。特に学部設置の2016年度以降、公表された研究論文は増加傾向にある。また科研費の採択が2017年度14件、2018年度9件、2019年度12件であり高い水

福井大学国際地域学部 研究活動の状況

準を維持している。2016年度から2019年度にかけて新規に共同研究2件を実施した。(別添資料 3904-i1-3, 3904-i1-5) (再掲) [2.1]

- 本学部では、毎年各教員に教育研究等活動報告書の提出を求め、企画・評価委員会等でそれを分析し教員評価に使用することで、研究状況の検証及び研究活動の質を担保している。[2.2]

<必須記載項目3 論文・著書・特許・学会発表など>

【基本的な記載事項】

- ・ 研究活動状況に関する資料(総合文系) (別添資料 3904-i3-1)
- ・ 指標番号 41～42 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

<必須記載項目4 研究資金>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 25～40, 43～46 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

(特になし)

<選択記載項目A 地域連携による研究活動>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 地方自治体等の連携による共同研究の推進

本学部では、学部設置の2016年度以降、地域連携による研究活動について積極的に取り組んでおり、地方自治体等の連携による共同研究として、2016年度に永平寺町の教育等の国際化に関する「特色ある教育についての共同研究」を実施した。また、2019年度に坂井市及びえちぜん鉄道株式会社と「西長田駅再開発事業に関する共同研究」を実施した。[A.1]

これ以外に、共同研究ではないが、以下のような自治体等と連携した研究活動を行っている。[A.1]

- ① 気候療法を活用した福井県地域活性化のための調査事業
- ② 自治体と連携した特定の教科・領域における教員養成・語学センターを活用した小中高等・学校英語担当教師の英語教育力強化
- ③ 地域環境研究教育センターと福井市環境パートナーシップ会議・福井市環境推進会議とが連携した環境改善活動

- ④ 地域力を活かした環境教育, 「質の高い ESD (持続可能な開発のための教育) プログラム開発と実践」の共同研究, 幼小中での ESD 実践
- ⑤ 地元企業との連携に基づくグローバルエンジニア育成プロジェクト
- ⑥ 里地里山の教育研究

以上のように, 数多くの地域連携による研究活動を行っており, 高い水準を維持している。

<選択記載項目 D 総合的領域の振興>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 総合的領域の振興を推進するための工夫

本学部では, 学部設置の 2016 年度以降, 多文化理解・交流及びグローバル化に関する研究や地域課題に関する研究などの特色ある研究等について学部長裁量経費等の重点配分を行っている (別添資料 3904-i1-6) (再掲)。その結果, 異文化理解・交流に関する研究 (2016~2019 年度に, 研究論文 27 件, 口頭報告 66 件), グローバル化に関する研究 (2016~2019 年度に, 研究論文 3 件, 口頭報告 2 件), 地域課題に関する研究 (2016~2019 年度に, 研究論文 3 件, 口頭報告 2 件) があり, 総合的領域の振興について高い水準を維持している。[D. 1]

<選択記載項目 E 学術コミュニティへの貢献>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部の教員を主催者・座長として, 2016~2019 年度に 5 件の会議・研究集会が開催された。また, 本学において, 2019 年 9 月に北陸 4 大学連携セミナー「地域社会における移民問題」を実施するなど, 高い水準での地域における学術コミュニティの貢献活動を維持している。[E. 1]

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

<必須記載項目1 研究業績>

【基本的な記載事項】

- ・ 研究業績説明書

本学部の研究の主たる対象は、グローバル化する地域における諸課題であり、この課題の背景や原因を分析し、解決の方向性を探るための個別の研究分野における研究及び総合的な研究を行うことが本学部の研究目的である。このことを踏まえて、本学部の目的に沿った優れた研究業績の選定の判断基準として、個別の研究分野の研究及び総合的な研究の観点から、学術的意義の点ではその研究成果が、学会等における受賞歴、権威ある学会誌への掲載、外部資金の調達等を含めて学会等において高い評価を得ているものとし、また社会、経済、文化的意義の点では、学会・講演会等でのパネリストや講演者といった学術的知識の普及・啓発活動について高い評価を得ているもの、多数のメディアに掲載されているものを、本学部の代表する優れた研究として選定している。

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- グローバル化する地域における諸課題の背景や原因を分析し、解決の方向性を探るための個別分野の研究及び総合的な研究として特筆すべきものは以下の通りである。
 - ・ ジャポニズム（日本趣味）の時代とされる19世紀後半のフランスおよび西洋陶磁の革新に大きく影響を与えたのは、日本の国内向けに作られた陶器や茶陶であり、日本陶芸に特徴的な偶発的な美を重んじる造形表現であったことを明らかにした研究（別添資料 3904-ii 1-1）。[1.0]
 - ・ 英語を母国語としない学習者について、モチベーションとエンゲージメントを高める効果的な学習方法としてのゲーミフィケーションについて調査・検討し、言語教室でゲーミフィケーション戦略を実装するためのフレームワークを構築し、その有効性を明らかにした研究（別添資料 3904-ii 1-2）。[1.0]
 - ・ 19世紀の民族主義思想や国民国家の成立において、市民が何を拠り所にし、何を希求し、いかに他国との関係構築が図られたのか、すなわち地域性と国際性の関係を、19世紀ドイツ語圏の国民文学の作品から考察するとともに、他国と照らし合わせ、領域横断的な視点を獲得した研究（別添資料 3904-ii 1-3）。[1.0]
 - ・ 律令制成立期の男女の分業形成において、国家が規定した調布と庸布という二つの規格が、女性はその技術を習得する、二つの系統の腰機の技術に由来することを、甲塚古墳の機織形埴輪や遺跡出土の木製機織具の分析・技術復元により実証した研究（別添資料 3904-ii 1-4）。[1.0]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
2. 教職員データ	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
5. 競争的外部 資金データ	25	本務教員あたりの科研費申請件数 (新規)	申請件数(新規)／本務教員数
	26	本務教員あたりの科研費採択内定件数	内定件数(新規)／本務教員数 内定件数(新規・継続)／本務教員数
	27	科研費採択内定率(新規)	内定件数(新規)／申請件数(新規)
	28	本務教員あたりの科研費内定金額	内定金額／本務教員数 内定金額(間接経費含む)／本務教員数
	29	本務教員あたりの競争的資金採択件数	競争的資金採択件数／本務教員数
	30	本務教員あたりの競争的資金受入金額	競争的資金受入金額／本務教員数
6. その他外部 資金・特許 データ	31	本務教員あたりの共同研究受入件数	共同研究受入件数／本務教員数
	32	本務教員あたりの共同研究受入件数 (国内・外国企業からのみ)	共同研究受入件数(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	33	本務教員あたりの共同研究受入金額	共同研究受入金額／本務教員数
	34	本務教員あたりの共同研究受入金額 (国内・外国企業からのみ)	共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	35	本務教員あたりの受託研究受入件数	受託研究受入件数／本務教員数
	36	本務教員あたりの受託研究受入件数 (国内・外国企業からのみ)	受託研究受入件数(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	37	本務教員あたりの受託研究受入金額	受託研究受入金額／本務教員数
	38	本務教員あたりの受託研究受入金額 (国内・外国企業からのみ)	受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ)／ 本務教員数
	39	本務教員あたりの寄附金受入件数	寄附金受入件数／本務教員数
	40	本務教員あたりの寄附金受入金額	寄附金受入金額／本務教員数
	41	本務教員あたりの特許出願数	特許出願数／本務教員数
	42	本務教員あたりの特許取得数	特許取得数／本務教員数
	43	本務教員あたりのライセンス契約数	ライセンス契約数／本務教員数
	44	本務教員あたりのライセンス収入額	ライセンス収入額／本務教員数
45	本務教員あたりの外部研究資金の金額	(科研費の内定金額(間接経費含む)＋共同研 究受入金額＋受託研究受入金額＋寄附金受入 金額)の合計／本務教員数	
46	本務教員あたりの民間研究資金の金額	(共同研究受入金額(国内・外国企業からのみ) ＋受託研究受入金額(国内・外国企業からのみ) ＋寄附金受入金額)の合計／本務教員数	